

「かつの牛」と「民謡」共に未来へ継承したい！

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



(鹿角市十和田)

湯沢 政幸

経営概況

繁殖牛頭数 | 日本短角種4頭、黒毛和種4頭
牧草地 | 約1ha
構成員 | 1名(本人)
出荷先 | 秋田県家畜農業協同組合鹿角支所
あきた総合家畜市場

令和7年1月30日に、地域の特性を生かした農産物を保護する農林水産省の「地理的表示(GI)保護制度」において、鹿角市及び小坂町のブランド牛である「かつの牛」が登録されました。その「かつの牛」を絶やすまいと地元企業で働きながら、日々奮闘している若手畜産農家を紹介します。

▶ きっかけ

祖父の代から、かつの牛で知られる「日本短角種」の繁殖農家を営んでいた湯沢家の三男として育った政幸さん。小学生の頃から父親を手伝い、牛の世話をしていたそうです。平成15年に高校を卒業後、地元企業に就職し、サラリーマン生活をスタートさせました。



放牧を待つ「かつの牛」

その後、平成27年に第一線で活躍されていた父親の他界をきっかけに、繁殖事業を承継した長兄を手伝ったそうです。しかしながら、そのお兄様も令和6年にご不幸にあわれ、政幸さんは、事業の継続に迷いもありましたが、祖父の代から続く繁殖農家をここで辞めてしまうのはもったいないと、サラリーマンと繁殖農家を兼業で取り組むことを決意しました。

▶ 取組

日本短角種の繁殖だけでは、十分な収入が確保できないことから、平成27年に黒毛和種の飼養も開始し、現在は、日本短角種4頭、黒毛和種4頭の繁殖牛を飼養しています。政幸さんの平日は、朝5時に起床し、真っ先に牛に給餌をしてから出勤、帰宅後は、牛に夜の給餌を行っているそうです。

鹿角地域では、古くから5月上旬から10月下旬に山へ放牧する「夏山冬里方式」が行われており、比較的手間がかからずに飼養できることから、兼業でも十分経営が可能とのこと。日本短角種は、放牧適性が高く、牧草だけでも体が大きく育つ特徴があり、自然交配で毎年1頭、人の手を借りずに出産が期待できるのもメリットだそうです。



●夏山で伸び伸び育つ「かつの牛」

▶ もうひとつの顔

政幸さんは、幼い頃から祖父や父親に民謡や三味線の指導を受け、現在でも週一回の練習を欠かさず、数々の大会やライブに出演しています。中でも平成28年に開催された「日本民謡協会民謡民舞秋田県大会」では、見事優勝し全国大会にも出場した経歴を持っています。また、御子息をはじめ、地域の子どもたちに民謡を教えるなど、伝統と文化の継承活動にも力を入れているそうです。



●TV番組にて民謡を歌う政幸さん

▶ これから

経営の維持安定を図りたいことから、黒毛和種、日本短角種の繁殖牛を1頭ずつ増やしたい。将来は、息子たちが、繁殖農家、民謡の歌い手を承継してくれたら嬉しいと話してくれました。

(●印写真: 湯沢政幸氏提供)

